

関係づくりの「お薦めフレーズ」

子供・保護者との関係づくりのヒントになる「お薦めフレーズ」ベスト5を挙げてみました。



名城大学大学院 大学・学校づくり研究科および教職センター 教授
曾山 和彦

そやま かずひこ*群馬県桐生市出身。東京学芸大学卒業、秋田大学大学院修士課程修了、中部学院大学大学院博士課程修了。博士(社会福祉学)。東京部、秋田県の養護学校教諭、秋田県教育委員会指導主事、管理主事、名城大学准教授を経て現職。学校心理士、ガイダンスカウンセラー。上級教育カウンセラー。学校におけるカウンセリングを考える会代表。

著書に「時々、「オニの心」が出る子どもにアプローチ 学校ができるソーシャルスキルトレーニング」(明治図書)、「教室でできる特別支援教育 子どもに学んだ「王道」ステップ ワンツー・スリー」(文溪堂)、編著書に「気になる子どもへの支援のワザ」(教育開発研究所)、ほか多数。

私は今、将来の教師を目指す学生を指導する立場にいます。毎回の講義後、「振り返り用紙」への記述を通して、感想・質問を受けようとしています。それらの中で特に多いのは、「子供・保護者との関係づくり」に関するものです。

そこで、本稿では、子供・保護者とのよりよい関係づくりのヒントとなるよう、日々、私が学生に伝え続けている「お薦めフレーズ」を紹介いたします。

以下、紹介するのは、現場の先生方にとって、「当たり前」に感じられるものも多いことでしょう。どうぞ、皆さんの「教育のPOCKET」の中身と確認すり合わせをしながら、私の「POCKETベスト5」フレーズをご覧ください。

1 関係づくりの第一歩は相手への関心

今から20年前、特別支援学校に勤めていた時、関係をつくるのが難しいと言われていた男児の担任をしたことがあります。確かに、

初めは私への警戒心があったようでしたが、数日、さまざまに働きかけているうちに、彼が「クレヨンしんちゃん」好きということが分かりました。

翌日から私が彼にかけた言葉は、「アクション仮面!」「大王様」「みさえ」等々、「しんちゃん」フレーズのオンパレード。彼の「関心の土俵」に乗った私を彼が放っておくはずがありません。たちまちのうちに、彼と私の関係の糸は結ばれ、それからの2年間、とてもよいかかわりができました。他の先生の言うことは聞かなくても、私の言うことは「ハイ、曾山先生!」と聞くのですから、それはもうかわいかった…。

かかわりに際し、最も寂しいのは「無視されること」。ならば、逆に、最もうれしいのは「関心を持ってもらうこと」。

教師であれば誰もが、子供との関係づくりはもちろん、保護者とも、同僚とも、よりよい関係をつくりたいと思うことでしょう。まずは、その第一歩を「相手を持っている関心の土俵」に乗せてみると

よいでしょう。
もし「hitotsume」の読者の皆さんが、私との関係づくりの第一歩を踏み出したと思うくださるならば、それはもう、「好きな芸能人は?」「今まででいちばん思い出に残っている外国旅行は?」の二つの質問で、私との関係の糸が一瞬で結ばれます!
ここで、関係づくりの第一歩が踏み出しやすくなる「演習」を紹介します。「探偵ゲーム」です。ぜひ、活用してみてください。

2 名前を呼ぶ

大学で私の講義を受けた学生が教師になり、今では「私の教え子」が高校等で教え、その生徒が大学に入学し、私の講義を受けるケースも増えてきました。

先日、ある女子学生が、「高校の担任だったN先生は大学で曾山先生の講義を受けたと話していました。N先生はとても親しみやすく、信頼できる先生でした。その理由が今日、この講義を受けて

紹介! 関係づくりの第一歩が踏み出しやすくなる 演習 探偵ゲーム

友達を見渡して、「きつと、この人がそうだ!!」という人をリサーチして、たくさん、友達のサインを集めましょう。ジャンケンをして勝ったら、友達に1つ質問します。友達の答えが「Yes」だったら、サインをしてもらいます。

- 1 初めに、プリントの10項目全ての質問を見て、自分の中で「Yes-No」を決めておきます(1分間)。
- 2 プリントのルールを読み、確認します。
- 3 探偵ゲーム開始!(3分間)
サインをお願いするときの「お願いします」、もらったときの「ありがとう」を忘れずに。



- 4 3、4人のグループをつくる。
グループで10項目の質問を使いながらフリートーク!(3分間)



探偵ゲーム (2015. 教師研修用冬バージョン)

友達を見渡して、「きつと、この人がそうだ!!」という人をリサーチしましょう。たくさん、友達のサインを集めましょう!

(ルール)

- ・友達とジャンケンをして勝ったら、どれか1つだけ質問をすることができます。
- ・相手から「イエス」という返答をもらったら、その人から「サイン欄」にサインをもらうことができます。
- ・同じ人と続けてジャンケンをすることはできません。

No.	質問事項	サイン欄
1	あなたは普段、朝ご飯を食べますか?	
2	あなたは冬休みに、どこかに行きますか?	
3	あなたは身体を動かすこと(スポーツ)が好きですか?	
4	あなたは読書が好きですか?	
5	あなたはおせち料理が好きですか?	
6	あなたは冬という季節が好きですか?	
7	あなたは、スキーが好きですか?	
8	あなたは外国旅行をしたことがありますか?	
9	あなたはお寿司が好きですか?	
10	あなたはお年玉を誰かにあげますか?	

であり、学生にも伝え続けている言葉です。

先日、ある女子学生が、講義後の振り返り用紙に、「先生の講義は受けていて幸せになる。先生がいつも笑顔で楽しそうに話しているから…」という感想を寄せてくれたことがあります。これも、先の「名前を呼ぶ」エピソード同様、「今年の十大ニュース」の上位にランクイン：私を「幸福」にしてくれた学生からの声です。

「教師は役者であれ！」…という言葉もあります。どうでしょうか、皆さん？「笑顔をその瞬間につくる」ことができる教師を、お互い目指しませんか？きつと、子供、保護者、同僚との関係づくりにおいて、「笑顔」は抜群の効果を発揮してくれます。

（参考：引用文献）

※1 アラン 串田孫一・中村雄二郎訳

2008 幸福論 白水社 239

※2 ジェームズリンゲ説 赤井誠生

1999 中島義明編

心理学辞典 有斐閣 307

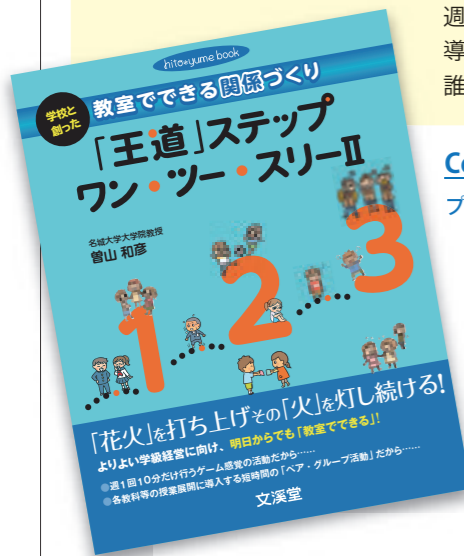
曾山先生の最新刊のご紹介

教室でできる関係づくり 「王道」ステップワン・ツー・スリーⅡ

本書は、教師と子ども、子ども同士の「関係づくり」を通して、
自尊感情とソーシャルスキルを育むためのアプローチに、焦点を当てるものです。
本書「はじめに」から

週1回10分だけ行うゲーム感覚の活動&各教科等の授業展開に
導入する短時間の「ペア・グループ活動」だから…
誰もが、配慮と工夫で、「関係づくり」が教室でできる！

3月
新刊



Contents

- プロット
- 第1章 現代の子どもと「関係づくり」**
 - 現代の子どもと支援の「王道」 ●関係づくりの3ステップ
 - 第2章 依佐美中学校の実践に学んだ「関係づくり」の3ステップ**
 - ステップ1「一枚岩」をつくる ●ステップ2「関係づくりの花火」を打ち上げる
 - ステップ3「関係づくりの火」を灯し続ける ●授業 社会科(中学2年生)
 - 第3章 「感動」の紙上再現 依佐美中学校研究発表会**
 - 研究会当日の流れと「よささびタイム」「公開授業」参加者の感想
 - 講演 学びを支える学級づくり・学校づくり ●対談 依佐美中学校の研究と実践
 - 第4章 「気になる子」の学級親和を促す短時間グループアプローチの実践**
 - 「気になる子」が溶け込む「関係づくり」
 - 第5章 「関係づくり」に悩む君に伝えたい・伝えられること**
 - 「関係づくり」に悩む君に「7Day's Pocket」 ●いつか君も…エサレンへの旅

曾山和彦先生出版記念講演会

講演テーマ ● 教室でできる関係づくり「王道」ステップワン・ツー・スリーⅡ
—『関係づくりの花火』を打ち上げる&『火』を灯し続ける!!—

日時 ● 平成28年2月28日(日) 13:00~15:30(12:30受付開始) 場所 ● 名城大学 天白キャンパス 共通講義棟北N-105講義室

詳細は、文溪堂ホームページ (<http://www.bunkei.co.jp/>) でご案内しています。

文溪堂 曾山先生出版記念講演会

検索

3 耳は二つ二つ

「君はアナウンサーみたいいだね」と言われたい。私にあって、このエピソードは、「今年の十大ニュース」の上位にランクイン：それほどうれしい話でした。

身だしなみを整えることは、相手に対する敬意や心遣いを示すこと…と言われる。相手の名前を呼ぶことも同様です。特に、授業中は丁寧な「〇〇君、〇〇さん」と呼び、子供たちを大切に思っていることを伝えたいものです。

どうぞ、皆さん、私をどこかの講演会場で見かけたときには、「曾山先生！」と声を掛けてください。名前で呼んでいただければ、私と皆さんの「心の距離」はすぐに縮まります。

4 「うなずき」は現代版「打ち出の小槌」

最近、私が特に気に入って学生に伝え続けているフレーズです。

私たちには二つの耳と二つの口があります。「話すことの二倍聴くように」と、神様が私たち人間に分かるよう、身体をつくってくださったのでしょうか。

どうでしょうか、皆さん？一つ子供に話したら、二つ子供から聴く…お互い、そんな教師を目指しませんか？

昔話に登場する「打ち出の小槌」は振れば振るほど、金銀、財宝があふれ出てきます。その「打ち出の小槌」の現代版は、相手の話を聴く際、「なるほど」「そっか」等の言葉とともに首を静かに縦に振る「うなずき」ではないかと思えます。

子供の話をうなずきながら聴くと、そこには「安心・信頼」の空気が生まれます。私たちの周りを見渡すと、同僚の中に、現代版の「打ち出の小槌」をうまく使い、子供とも保護者とも、よりよい関係を築いている人がきつといることでしょうか。

どうでしょうか、皆さん？うなずきという現代版「打ち出の小槌」を使いこなせる教師を、お互い目指しませんか？

5 笑顔をその瞬間につくる

私はアランの「幸福論」※1にある「笑うのは幸福だからではない。むしろ、笑うから幸福なのだと言いたい」というフレーズが大好き

今、私は、前期後期とも、土曜日の1限目に担当の教職講義が入っています。土曜日に朝からの講義ということは、毎回、良い気分度で大学に向かえるかといえ、けしてそうではありません。しかし、先に述べた通り、「幸福論」を思い起こし、笑顔で教壇に立つよう心掛けています。教師という職業を選んだ以上、「笑顔」をその瞬間につくることできる、これは私自身に言い聞かせている言葉

です。

仕事が多忙だったり、人間関係のトラブルを抱えたりすると、気が付くと、私は不機嫌な顔をしていることがあります。そんなときには、好きな人、好きなことを思い出しながら笑うようにしています。すると、不思議に不機嫌感が薄れ、少しずつ幸福感が心に満ちてきます。心理学者、W・ジェームズの「行動が感情をつくる(例…何かを見て、身体が震えるから恐怖を感じる)」※2という言葉があります。アランの「幸福論」はまさにその通り…私にとっては「真」の考え方です。